

出土した主な遺構と取扱いについて

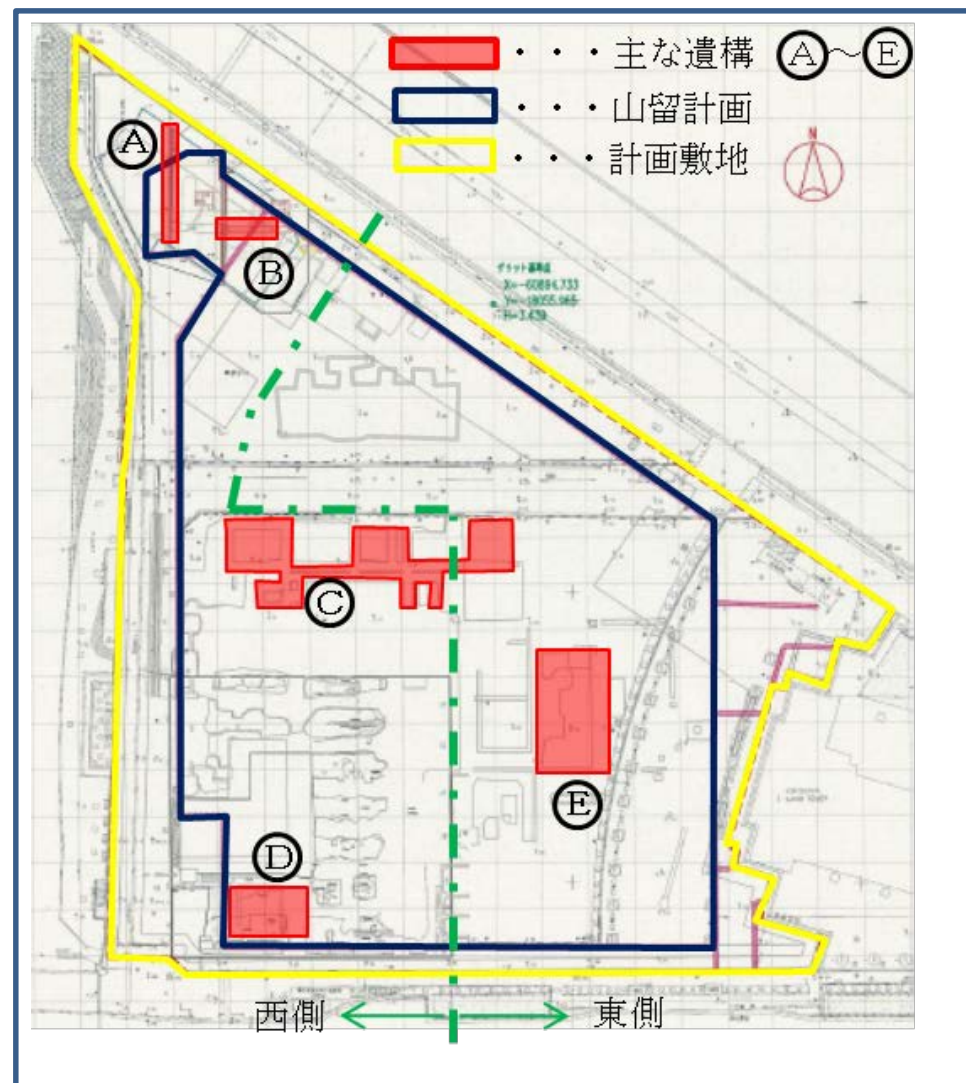
発掘調査の結果、主な遺構は下図で示す範囲に分布していました。

遺構の多くは、関東大震災で倒壊した建物基礎などで、基礎にはひび割れ等も見られました。

新市庁舎の建設計画では、地下1・2階は主に駐車場として整備するため、地下水を遮水する遮水型山留を不透水層の深さまで施工し、その内側を深さ約15mまで掘削する必要があります。

山留計画（青枠線）と遺構の位置を重ねると下図となります。この範囲内の遺構は撤去します。

①の江戸末期の石積み護岸については、山留計画の範囲を最小限にすることで、石積み護岸の一部を現状保存することが可能だとわかりました。②から⑤の建物基礎などの遺構は、山留・掘削の範囲内にあるため撤去しますが、移設、展示、再利用について検討します。



【遺構位置図】

① 江戸末期の石積み護岸



現在の護岸（明治期）の東側から出土。一部の石積みは取り外され周辺の建物基礎などに利用されていました。

山留計画を工夫することで護岸の一部を残すことが可能ですが、深い位置にあるため、現位置で展示することについては、安全対策や視認性の確保などの課題が多く、埋戻して現状保存する方針です。山留計画内の石積みは一時撤去のうえ、敷地内での展示や再利用について検討します。

② 燈台寮の基礎及び排水施設



明治3年頃に、燈台寮の試験場として建設されたレンガ造の建物基礎と基礎下部に敷設されていたレンガ造排水施設。

山留計画内にあるため撤去が必要です。遺構が大きいことや地震の影響によるひび割れなど損傷が激しいことから、構造断面やレンガ部材など限定した展示や再利用の可能性について検討します。

③ 旧本町小学校の基礎



明治30年頃から横浜商業学校（現在の横浜商業高等学校）、明治38年から関東大震災で倒壊するまで初代本町小学校の校舎として使用されていた建物の基礎。

山留計画内にあるため撤去が必要です。横浜商業高等学校及び本町小学校からの要請があり、基礎の一部を切り取り両校に移設しました。展示方法については両校で検討しています。

④ 横浜銀行集会所の基礎



現在の横浜銀行協会・旧横浜銀行集会所（中区本町3-8）の前身にあたる建物で、明治38年に建設され、関東大震災で被災・倒壊した建物の基礎。その後の建築工事の影響で、基礎は部分的に除去されているが、地震の激しい揺れで土間部分の地盤が盛り上がり変形した様子が確認できます。

山留計画内にあるため撤去が必要です。倒壊した建物基礎と変形した地盤を一体的に剥ぎ取りサンプル処理しました。今後、展示場所や展示方法について検討します。

⑤ 石組みの遺構など



建物跡の周辺から出土した石組みの排水施設や構造物の基礎と思われる石組み遺構。

山留計画内にあるため撤去が必要です。広場の植栽樹や縁石などとして再利用できないか検討します。

出土した遺構については、遺構の状態や現在検討を行っている施工計画などを踏まえ、教育委員会と個々の取扱いについて協議していきます。